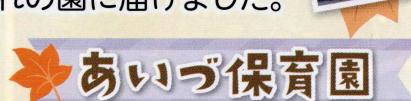
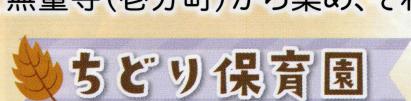
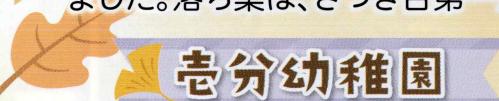
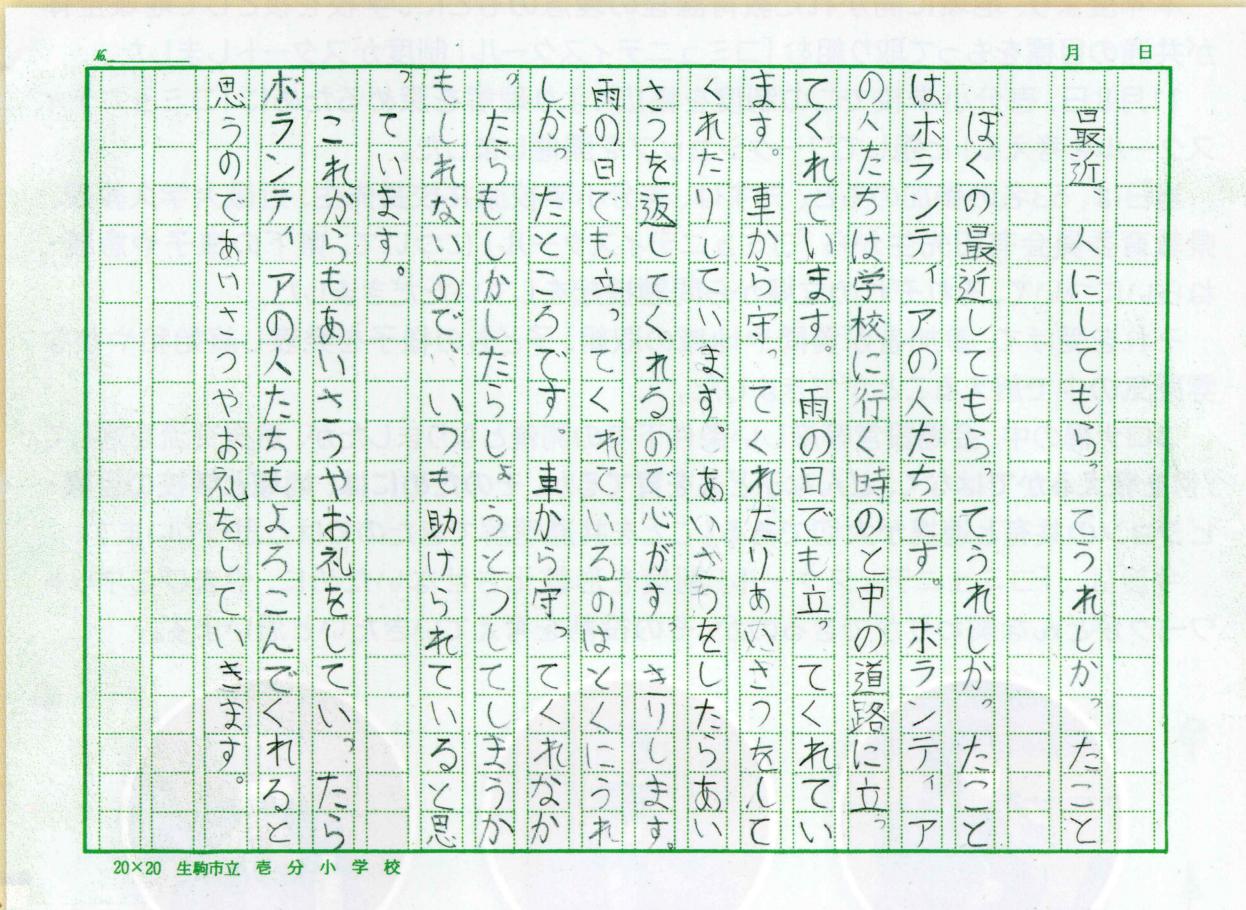


あいさつで心がすっきり!

これは、壱分小学校児童の作文です。作者とボランティアの方との様子が手に取るようにわかります。やまびこネットワークのあいさつ運動は、こんな出会いが、まちのあちこちで見られることを目指しています。重苦しいコロナ禍の中、あいさつの“すっきり気分”でまちを包みましょう。



イチョウの葉っぱで花束づくり

園庭で全園児が落ち葉あそび

公園で落ち葉を拾って持ち帰り、



生き抜く力を育むために ～どんな子どもを育てるか、共通理解を～

本年度より、地域に開かれた教育課程の理念のもとに、学校を核として地域全体が共通の目標をもって取り組む「コミュニティスクール」制度がスタートしました。

11月8日、壱分小学校でこの制度を幅広くより理解を深めるために「コミュニティスクールを考える」と題してワークショップを開催しました。

当日は、53名の参加のもと、先ずは、壱分小学校原井校長先生、近畿大学久教授、県教育委員会田中先生から「コミュニティスクール」について、県下の様子や意義・ねらいについて、それぞれの立場から問題提起をしていただきました。

それを受け、参加者が質問や地域の取組、子どもの様子を発表し終始和やかな雰囲気の中で終えることができました。

コロナ禍の中、会場設営等厳しい条件下での開催となりましたが、意見交流を通して『何を教えるかではなく、どんな子どもを育てるか、そのためには、地域と学校の目標・ビジョンの共有と連携が大切である』ことを共通理解できたのではと思っています。

今後は、「コミュニティスクール」制度を形骸化させないために、やまびこネットワークがどんな関わりができるのか、その役割を考えていきたいと思います。

